



ラクスル<4384>、米ゴールドマン・サックスと組みMBOで株式を非公開化



印刷・広告のプラットフォーム事業を展開するラクスルは、積極的な投資による規模拡大を進めるうえで、短期的な業績や株価動向にとらわれない経営体制が必要と判断した。株式を非公開化して、M&Aの推進や既存事業・新規事業への投資強化を進める。米ゴールドマン・サックスと組み、MBO（経営陣による買収）の一環としてTOB（株式公開買い付け）を実施する。

TOB終了後、ラクスルの創業者である松本恭撮会長と永見世央社長は議決権の50%を取得し、継続して経営にあたる。

買付主体はゴールドマン・サックス傘下のR1（東京都港区）。買付価格は1株につき1710円で、公表前営業日の終値1250円に対して36.8%のプレミアムを加えた。TOBによる買付代金は約1044億円。買付予定数は6106万2650株で、下限は3969万9100株（所有割合66.6%）。

買付期間は2025年12月12日～2026年2月4日までの33営業日。決済の開始日は2026年2月12日。公開買付代理人は野村証券。ラクスルはTOBに賛同を表明し、株主に応募を推奨している。同社の東証プライム市場への上場は廃止となる。

TOBの実施後、松本会長と永見社長それぞれの資産管理会社がR1の祖父母会社に対して再出資を行う。最終的にゴールドマン・サックスが議決権比率の50.00%を保有し、松本氏の資産管理会社が23.68%、永見氏の資産管理会社が26.32%を保有する構図になる。

ラクスルは2009年に設立。2018年に東証マザーズ市場に上場し、2019年に東証1部に移行（2022年4月に東証プライム市場に移行）。